

2023 年 9 月 1 日実施

【LSC】第 13 回教育力アップセミナー ―組織的な教育力を高めるために―

9 月 1 日(金)、本学新任教職員を対象に、第 13 回教育力アップセミナーを開催しました。

本セミナーは 2010 年度より実施しており、着任早々の教職員を対象として、大学が置かれた状況や本学の特長の理解を促し、あわせて組織的な教育力を高めることをねらいとしています。今年度は、参加者 20 名(教員 13 名・職員 7 名)で実施しました。

今回のセミナーは、松川太一学習支援センター長の進行で、①広島修道大学の現状と課題、そして改善策についてデータにもとづいて考える ②アクティブ・ラーニングの手法について体験・理解する ③所属の異なる教職員の相互理解を深め、今後の課題改善に向けた協力関係をつくるの 3 つを目的として行われました。

参加者は 5 つのグループに分かれ、自己紹介のアイスブレイク後、メインテーマに入りました。

はじめのセッションでは、中教審答申「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」(2018 年)に触れ、アクティブ・ラーニングの必要性や手法の例について、また高等教育政策と FD・SD について学びました。さらに、本学を含む多くの大学で導入されている IR(インスティテューショナル・リサーチ)の重要性、データの収集・分析・報告にもとづいた外部評価への対応、経営の改善・教育の改善が求められていること等を学び、実践ワークに繋がりました。

実践のセッションでは、『広島修道大学の現況』等の資料を基に、「どうすれば志願者を増やすことができるか」というリサーチクエスションを IR の視点から分析するワークに取り組みました。ここで用いたのは「ジグソー」という手法です。ジグソーでは、グループのメンバー各自が異なるトピックの「専門家」となり、他グループの同じ専門家同士でそのトピックを習得した後、自グループに戻り習得したことを教え合います。最終的にグループとして意見をまとめ発表しましたが、同じデータを利用しても、提案内容や注目する視点に違いが見られ、各グループの個性が表れていました。この手法では 2 つのグループで活動するので、より多くの参加者との交流を持つことができました。

参加者からは、「実際の修大をテーマにアクティブ・ラーニングや IR の演習ができて良かった」「他部局・他学部の教職員と意見交換でき、大学全体として各教職員が考えるべきことを共有できた」「自ら体験することで、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業のイメージをより具体的に掴むことができた」などの声が寄せられました。

